

生浜地域誌

19.7.7

第49号

発行 NPO法人ちば・生浜歴史調査会

電話 080-5387-2592

「書の話」

古筆(こひつ)を読む

6/27(木)

5名参加

講師・白井孝(本会員)

活動報告☆☆☆

「かごを編む」講座

6/22(土) 21名参加

「荷ひも」で籠(カゴ)を編む講座です。前回好評であり今回も定員オーバーの参加数となりました。今回は基本的な編み方からステップアップをした複雑でおしゃれ感あふれるカゴが出来上がりました。自由な色合いで、自分で作れ、丈夫なカゴになる楽しい作業です。様々なカゴも紹介されました。



日本には「古筆」と呼ばれる古人の書き残した文書が、紙などに書かれて残っています。和歌集・物語・手紙などです。但し古筆は能書(字が上手いもの)であること。

古筆の実物

から「伊勢物語」の一節を読みました。

「椎名上郷名主文書」好評です!!

「今この時を逃せば資料は散逸しさらにこの時代の記憶は薄れてしまうのは必然であり、後世の千葉市民はこの千葉の歴史を振り返ることが出来なくなってしまうのではないか。」というほどの危機迫るものではありませんが、生浜地域にあった名主の嶋田家文書を後世の者に分かり易く読み解く一冊を上梓しました。

この仕事が出来たのは、生浜の住民であったこと、幼馴染の人間関係があり、本会の勉強会の情熱があったからです。

加えて読売新聞(裏面参照)に大きく紹介されてからの反響は大きかった。6/13の新聞発行日から3日間は注文問い合わせの電話が絶えませんでした。その日のうちに残部15冊は完売。このような内容の本は限られた地域であり専門的内容であるため需要度は低いものようですが、今回は増刷して対応する事となりました。

古文書解説に関心が高く、身近なところから出た古文書に興味がある、そして嶋田家血縁者の多い事などが分かりました。

この本は本会に関連する学校や公共施設・図書館に贈呈してあります。昨年度の賛助会員にも贈呈しております。国立国会図書館にも納めました。

地域の、過去・現在・未来を結ぶ活動を通し、豊かな毎日を過ごしましょう

令和元年度

賛助会員紹介

ご入会ありがとうございます。この浄財は主に民具類の修理・保存収納のために使わせていただきます。賛助会員には地域誌を一年分贈呈致します。

【賛助会員様(芳名)】

- (浜野)石橋幹男様・小木曾和夫様・叶親重信様・出口恵一様・永井紀子様・並木昭様・羽田親恵様・太田圭右様・小菅俊一様・久野栄一郎様・久野敏夫様・宍倉敏子様・中島義則様・石原泰郎様・岩村衛様
- (はまの台)飯島正幸様
- (塩田)秋山利雄様(南生実)吉野弘様・美山敏夫様
- (生実)菅崎三千三様・今井吉彦様・大和久観浄様・重俊院様・木村芳子様・生実町町内会様・春成美佐子様・秋元禮子様・増田照子様・田鎖かづ子様
- (中西)加藤勝治様・加藤玲子様・高梨明子様
- (市川市)小田京子様
- (古市場)丸山和昭様
- (千葉寺)菅崎量進様(院内)松井清子様
- (寒川)野老和夫様(村田)宇井正昭様
- (黒砂)田村敏孝様(弁天)中村陽子様

☆☆☆

【体験講座・昔あそびのご案内】竹とんぼを、竹を削って作ります。実際に飛ばし方も指導します。その他にペーパークラフト・けん玉・めんこ・お手玉・おはじき・竹馬・羽根つき・こま回し・カルタ・すごろくなど昔懐かしい遊びの数々を体験してみましよう。ナイフを使用しますので小学生低学年以下の方には保護者同伴でお願いします。(イベント保険に加入します)日時 令和元年7月27日(土) 9:30~11:30 場所 生浜町役場庁舎(浜野町1290-3) 参加費 無料 持ち物 特になし 申し込み NPO 法人ちば・生浜歴史調査会まで先着20名で締切ります。 締切 7/20(土)

江戸庶民の暮らし記述

鴛田家古文書 解説を出版

ちば・生浜歴史調査会

地域史の調査や啓発に取り組んでいるNPO法人ちば・生浜歴史調査会は、千葉市緑区茂呂町にある旧家・鴛田家の古文書を解説した「椎名上郷名主文書」を出版した。同家は江戸時代、生実藩領で代々、名主を務めていた。古文書からは、当時の端午の節句や葬式など庶民の暮らしがうかがえるほか、江戸三大飢饉の一つ、天保の飢饉当時の茂呂町周辺の状況を知ることが出来る。

鴛田家古文書は1983年、同家の納屋から発見された。当時、市史を編集中心だった千葉市は急ぎよ、「史料編4 近世」に同古文書の一部を取り込んだ。その後、市学芸員として市史編集に携わった地元出身の今井公子さん(74)が中心となって、2007年にちば・生浜歴史調査会を設立、鴛田家古文書の解説に本格的に取り組んだ。

同古文書は安土桃山時代から昭和初期まで約330年間にまたがる文書、絵図約2100点。同調査会では今井さんが講師となり、会員、地元住民約15人で古文書解説の基礎を学んだ上で、約2年前から丸山和昭さん(65)、春成美佐子さん(67)、秦まさ代さん(74)らがテーマ別に執筆、編集に取り組んできた。

完成した椎名上郷名主文書は「御林の管理」「生実藩の献上品」「宗門人別帳の作成」「天保七年の椎名地域の災害」では、18830年代の天保の飢饉の際、日照不足と冷害が続いて稲が実らず、さらに山崩れが起き、家が倒壊した様子が記述されている。

A4判396頁、3200円(税込込み)、150冊を印刷。執筆、編集を主導した今井さんは「この本にふれ、江戸時代や明治時代の千葉を知るきっかけにしてほしい」と話している。問い合わせは同調査会(080-53387-2592)へ。



「椎名上郷名主文書」を出版した「ちば・生浜歴史調査会」のメンバーら